

地域で育てる9年間の義務教育

～ 品川版コミュニティ・スクールを活用して～

品川版コミュニティ・スクールの目的

- 学校を核として、地域で支える9年間の義務教育
- 教員の異動に影響を受けない、継続的な教育活動の展開
- 家庭、地域、学校間の連携強化

品川版コミュニティ・スクールの特徴

学校の教育活動について、基本的な方針を学校とともに考える「**校区教育協働委員会**」と、教育活動の支援の実働部隊となる「**学校支援地域本部**」の両方を設置することで、地域と学校が協力して子供たちの教育を進めることができる。

校区教育協働委員会

＜役割＞

- 学校運営の基本方針を承認する
- 教育活動の評価をする
- 区費教職員の配置等について意見を述べるができる
- 学校支援活動の企画・調整をする**

＜メンバー＞

保護者：児童・生徒の生活についてよく知っている。
 地域住民：地域で子どもたちのために、どんなことができるか知っている。
 学識経験者：学校の教育活動について専門的な知識もっている。
 関係機関職員：それぞれの機関の専門的な情報もっている。
 卒業生：学校の伝統やよいところを知っている。
学校地域コーディネーター：教育活動をととして学校と地域をつなぐ役割をする。

学校支援地域本部

＜役割＞

- 学校が必要とする教育活動などについての支援を行う。

学習や教育活動に関する支援

- 学習指導 ○部活動指導
- 読み聞かせ ○学校行事の補助
- 教材・教具作成の協力 など

環境整備に関する支援

- 図書室運営・整備
- 校内清掃・美化活動
- 学校内外のパトロール など

＜メンバー＞

学校地域コーディネーター：学校が必要とする支援について適切な学校支援ボランティアを派遣する。活動について学校や地域に知らせる。

学校支援ボランティア：「協力できる活動について、協力できる時間」の範囲で、要請があったボランティア活動に参加する。

品川版コミュニティ・スクールの概要

